心身障害学研究　Bull. Spec. Educ.
11(2):25—33, 1987

自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅷ(1)
——自閉症児の普通学級適応についての検討——

佐竹　真次*　園山　繁樹*　前川　久男　小林　重雄

幼児期に治療教育・訓練を受けた後小学校普通学級に入学し，その後中学校普通学級に入学した自閉症児5名についての8年目の報告である。本研究では，主にSG式職業興味検査と教研式一般職業適性検査の結果を検討した。その結果，1）職業興味検査においては各自がそれぞれ独特のプロフィールを示しており，対象児間の共通的特徴はほとんどみられなかった。2）また，職業適性検査においては，精密運動的技能の方が知覚・認知的技能よりも低いという共通的特徴が対象児間にみられた。何らかの職種の基準に到達できた者は，5名中3名であった。

キーワード：自閉症児　追跡研究　学校適応　職業興味検査　職業適性検査

1．問題と目的

幼児期に治療教育・訓練（行動療法）を受けた後，小学校普通学級に入学した自閉症児の学級適応について，我々は1年毎にその経過を報告してきた（板垣ほか，1979；山根ほか，1980；板垣ほか，1981；園山ほか，1983；園山ほか，1984；園山ほか，1985；佐竹ほか，1986）。これらの子どもたちは昨年(1984)中学校普通学級に入学した。したがって，第8報である本報は中学校第2学年時の報告である。

前報（佐竹ほか，1986）では，P－Fスタディ，母親へのインタビュー，教研式観点別到達度学力検査（CRT）算数を実施し，その結果について報告した。そして，P－Fスタディにおいては，1) GCR（集団適応度）は29%から75%と範囲が広く，個人差が大きい，2)GCRとIQ，SQとの間には一定の関係はみられない，3)人や物に対する直接的な攻撃傾向は高くない，4）寛容の精神，他を弁護する傾向が低い，などの特徴が明らかとなった。またCRT（算数）においては，前学年のレベルを達成していると考えられるのは2名（A児，C児）のみであった。

ところで，本対象児たちはすでに中学2年生となり，将来の進路についてもそろそろ真剣に検討しなければならない時期にさしかかっている。近年，自閉症児の進路指導に対する教育的関心が高まってきている（茨木，1986）にもかかわらず，これまで自閉症児の進路（職業）に対する興味や適性について詳細に論じられたことはほとんどなかった。そこで本報では，SG式職業興味検査と教研式一般職業適性検査の結果を中心に報告し，対象児の進路（職業）に対する興味と適性，および本人，親の希望・見通しとの関係を検討する。

2．方　法

1．調査方法

対象児の職業に対する興味を調べるため，一連の記述的項目に対して「好き」「嫌い」で答え興味因子を特定化するSG式職業興味検査を，また職業に対する適性を調べるために，一連の作業検査（筆記検査）によって各種の職業に必要な性能が測定される教研式一般職業適性検査を，さらに家庭・学校での適応状況，および対象児の進路・職業に対する親の希望・見通しを調べるために母親へのインタビューを，加えて本人の希望・見通しを調べるために本人へのインタビューを実施した。調査期間は昭和60年（1985年）8月である。

2．対 象 児

＊心身障害学研究科

対象児は，小林の基準（小林，1980）により自閉症と診断され，就学前に筑波大学心身障害学系知能障害研究室で指導を受け，昭和53年４月に小学校普通学級に入学した５名の中学２年生（普通学級）である。各児の概要は Table 1にまとめてある。各児のアルファベット記号は前報と同一である。なお，前報まで本群に属していたH児は，本年度から中学校内の情緒障害学級に在籍するようになったため，第２群で報告を担当することになった。

３．結　　果

１．職業興味検査のプロフィール

Fig. 1に，各児の職業興味検査プロフィールが示されている。各児がそれぞれ独特のプロフィールを示しており，対象児間の共通的特徴はほとんどみられない。強いていえば，B，C，D児が「機械や道具の操作に関連する仕事」の領域に特に高い興味を示している程度である。

Table 2には，職業興味検査による各児の各職種に対する興味・適性が示されている。希望職種と興味・適性との一致している者はA児とB児とD児の３名である。

２．一般職業適性検査のプロフィール

Fig. 2には，一般職業適性検査における各児の性能点プロフィールが示されている。A，D，E児のプロフィールはよく似ており，「書記的知覚」と「形態弁別知覚」が高い一方，「空間判断力」，「狙準及び目と手の共応」，「手腕及び指先の運動速度」，「指先の器用さ」，「手先の器用さ」が低く，

Table 1.　対象児の概要

	対象児				
	A	B	C	D	E
性別・生年月	男子　1971,9	男子　1971,7	男子　1972,2	男子　1970,11	女子　1972,2
主　　訴	他児と遊べない。落ちつきがない。指示に従えない。	言葉の遅れ	他児と遊べない。	言葉の遅れ。落ちつきがない。	言葉の遅れ。ひとり遊びが多い。
生　育　歴	熟産。吸引分娩 生下時体重 3,760g 始歩　11カ月 始語　9カ月	陣痛微弱。早期破水。吸引分娩 生下時体重 3,140g 黄疸が強かった 始語　12カ月	熟産。正常分娩 始歩　11カ月 始語　17カ月	熟産。正常分娩 生下時体重 2,800g 始歩　11カ月 始語　12カ月	熟産。早期破水 生下時体重 3,200g 始歩　10カ月 始語　42カ月
大学での訓練期間	１年10カ月	２年５カ月	１年８カ月	２年４カ月	１年10カ月
指　導　経　過	1976,5-1977,9 個　別 1977,6-1978,2 小集団 1978,4- 家庭教師	1975,10-1977,9 個　別 1977,6-1978,2 小集団 1978,4-1982,3 家庭教師	1977,5-1978,2 個　別 1978,1-1978,12 小集団 1978,4-1983,3 家庭教師	1975,11-1977,2 個　別 1977,6-1978,2 小集団 1978,4-1984,3 家庭教師	1976,5-1977,9 個　別 1977,6-1978,2 小集団 1978,4 家庭教師
就　　学				１年猶予	情緒障害児学級に５年まで通級。普通学級では１年時のみ介助員がつく。
田中ビネーIQ（小　6　時）	108	71	91	68	109
社会生活能力SQ（小　6　時）	89	98	84	80	104

とりわけ「狙準及び目と手の共応」は著しく低い。C児のプロフィールも前3者のそれに近いが，しかし「空間判断力」は低くない。B児のプロフィールは全体的に低く，中でも「狙準及び目と手の共応」はもっとも低い。

Table 3には，一般職業適性検査による各児の適職判定が示されている。適職ありと判定された者はA，C，E児の3名のみであり，B，D児はいずれの職種の基準にも到達しなかった。またA，C，E児に共通している適職は「分類・文書・簡易書記的作業」であり，C，E児に共通している適職は「各種の検査作業」であった。

Table 2.　職業興味検査による各児の興味・適性

	対象児									
	A		B		C		D		E	
職　種	希望順位	適性	希望順位	適性	希望順位	適性	希望順位	適性	希望順位	適性
一般事務系	2	◎				◎				
技術事務系						◎				
企画・制作系										
文科系専門職		◎								
対人折衝系										
販売系		◎							2	
奉仕系		○								
技芸系	1		1						1	
戸外・自然系								◎		◎
機械技術系			2	◎		◎	1	○		
理科系専門職				◎		◎				

◎　特に適する
○　適する

3．母親へのインタビュー

Table 4は母親へのインタビューの結果をまとめたものである。項目には，家庭生活に関すること，学校生活に関すること，将来に関すること，地域生活に関することの4点を選んだ。

4．本人へのインタビュー

Table 5は本人へのインタビューの結果をまとめたものである。項目には，中学を卒業したあとのこと，将来の職業についての2点を選んだ。

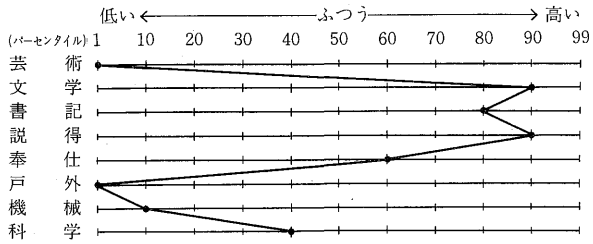
4．考　察

1．職業興味検査の結果について

職業興味検査結果においては各児が独特のプロフィールを示しており，共通的特徴はほとんどみられなかった。このことは，興味といわれるものが，自閉的特徴とはまったく独立した状態で長い年月にわたって形作られるものであることを示唆する。

Table 3.　一般職業適性検査による各児の適職判定

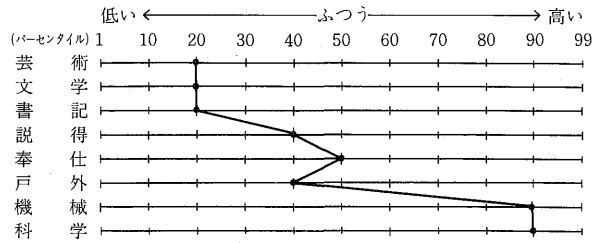
	適職項目	対象児 A	B	C	D	E
1	会計及び書記的作業					
2	計数・記録作業					
3	分類・文書・簡易書記的作業	○		○		○
4	単純計算作業					
5	販売作業					
6	電気・機械等技術作業					
7	図案・美術写真等作業			○		
8	ラジオ修理等単純電工作業					
9	タイプ印刷関係作業					
10	自動車修理等燃焼機関作業					
11	設計・製図作業					
12	各種の検査作業			○		○
13	建築・木工関係作業					
14	部品組立・修理作業					
15	研磨・道具仕上作業					
16	紡績等単純機械作業					



左のプロフィールのように，「文章を書いたり，読んだりする仕事」「対人折衝や販売活動を行う仕事」「速さや正確さを必要とする規則的，事務的な仕事」の領域に，特に高い興味を示している。

興味傾向を全般的にみると，文科系・理科系どちらともいえない。

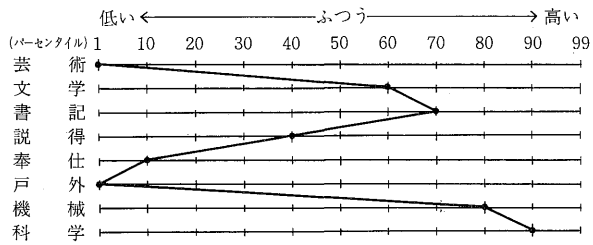
Fig. 1—1.　A児の職業興味検査プロフィール



左のプロフィールのように，「機械や道具の操作に関連する仕事」「自然科学分野での研究や研究補助的な仕事」の領域に，特に高い興味を示している。また，「社会のため，人々のために援助や奉仕を行う仕事」の領域に，他の領域と比べて興味を示している。

興味傾向を全般的にみると，理科系に高いといえる。

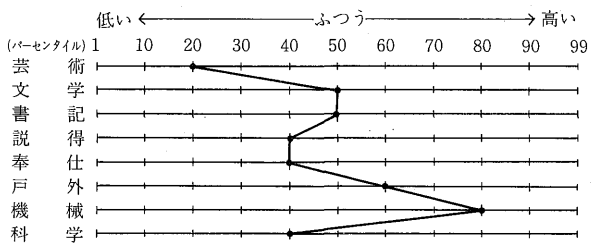
Fig. 1—2.　B児の職業興味検査プロフィール



左のプロフィールのように，「自然科学分野での研究や研究補助的な仕事」「機械や道具の操作に関連する仕事」の領域に，特に高い興味を示している。また，「速さや正確さを必要とする規則的，事務的な仕事」の領域に，高い興味を示している。

興味傾向を全般的にみると，理科系に高いといえる。

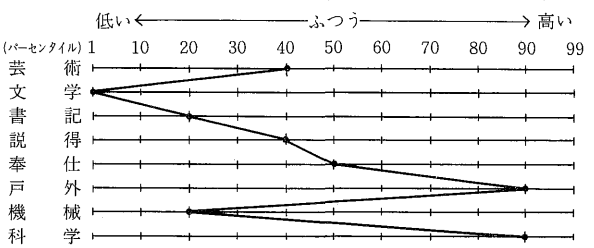
Fig. 1—3.　C児の職業興味検査プロフィール



左のプロフィールのように，「機械や道具の操作に関連する仕事」の領域に，特に高い興味を示している。また，「戸外で行ったり，自然を対象とする仕事」の領域に，比較的興味を示している。

興味傾向を全般的にみると，文科系・理科系どちらともいえない。

Fig. 1—4.　D児の職業興味検査プロフィール



左のプロフィールのように，「戸外で行ったり，自然を対象とする仕事」「自然科学分野での研究や研究補助的な仕事」の領域に，特に高い興味を示している。

興味傾向を全般的にみると，文科系・理科系どちらともいえない。

Fig. 1—5.　E児の職業興味検査プロフィール

Table 4.　母親へのインタビュー結果

対象児	A	B	C	D	E
1．家庭での生活のし方					
a．日曜日の使い方	午前中1時間位，宿題や自主学習をする。終わると時刻表や道路地図等を見てすごす。午後は図書館に行き，1～2時間すごして来る。平日放課後はテレビ，新聞，復習，宿題など。	自転車で電気屋へカセットを見に行く。Wカセットが欲しい。平日放課後はクラブ，空手道場。	図書館，本屋(鉄道関係のものが好き)	テレビ，遊びに出る(デパートのレコード売場)。放課後は近所回り歩き(いろいろな店の定休日，開閉店時間，改装予定日，エレベーターのメーカーなどを調べてきては教える)。	ファミリーゲーム。テレビを見る。新聞を見る。編物。家族で出かける。
b．家でのお手伝い	休みの日には洗たくの手伝い(洗たく機に水を入れ，洗たく，すすぎ，干しまで)毎日。雨戸の開け閉め。2日おき位に階段のそうじ及び自室のそうじ。カレーライス作りの野菜切り，いため等，祖母とすることがある。近い所へのおつかい。	お風呂の水あけ，洗たく，お客様にお茶出し(アイスコーヒー，紅茶，緑茶)，おつかい，料理(野菜いため，冷麦)	茶わん洗い(言うと手伝う)，戸じまり	夕ごはんのとき配膳，風呂洗い	買物，食事の用意(料理)，雨戸を開ける。洗たく物をたたむ。
c．小遣いをもらっているか。その使い方	1カ月1,000円 文具，すきな週刊誌(ジャイアンツ等)。あまりお金に関心がない。残ると自分で貯金してくる。	おばあちゃん2,000円 お母さん1,000円 カセットテープ(ダビング用) 貯金	やっていない。 必要なときだけ。	そのときそのとき。 日曜日1回1,000円(電車代，お昼)。 普通100円(ジュース，パン，マンガの本)。 おつりはそのままとっておく。どうしてもほしいものでなければ使わないよう教えているが，使いすぎる。	月1,500円 手芸用品，手芸の本を買っている。足りなければその分あげている。
d．趣味は何か。どんなことに興味があるか	時刻表と地図を見て楽しむ。電車に乗って，いろいろな所へ行くこと。小旅行。歴史の本を読んだり，見たりすること。	ダビング，機械のこと(テープレコーダ，ステレオ，クーラー，車)，冬はスケート，空手(機敏になってきた)，水泳	鉄道	テレビで歌番組，アニメなどをよく見る。話題は豊富で姉弟と話す。	手芸(小物作り，編物)園芸，その他何でもやりたがる。分からない事があると，すぐ地図や図かん，電話帳などで調べている。
2．学校での活動					
a．役割(委員)	生活委員	保健委員，音楽祭の合唱指揮	運挙管理委員，陸上部	社会の教科準備係	
b．友人関係	特に親しい友達はなし。サークルでの友人が3名。学校では友達にひっぱられて何とか皆についている。	3～4人(学級の)電話がかかってきて待ち合わせて遊びにゆく(母は1人にしか会ったことがない)。道場の友だち1人。近所にはいない。	2年になってから，遊びに行くことがなくなった。陸上部のともだち2～3人。	学級で4～5人。誕生日に呼ばれたりするが断わることが多い。	
c．学校であったことを家で報告するか	自分からは話さないが家族の者が問うと答える。	よく報告する。しかし学校で大げんかした時，言わなかった(テストの時消しゴムを拾ったかどうかということで)。	こちらから聞くと話す。めんどくさがる。	少しはする。興味のあることだけ(ファミコンカセットの貸し借りのことなど)。いじわるされたことなどを言う(「信用できない奴だ。目玉をとっちゃう」などと言う)。	めったに言わない。聞くといやがる。
d．日記(一日の様子がよくわかるもの)を書いているか	特にしていない。	6年まで。	書いていない。クラス班日誌を書く。	書いていない。	家では書いていないが，学校での連絡帳は書いているようだ。
3．将来について					
a．親として心配していること	自分の考えがあまりなくぼくぜんとしている。行事に対して不安を持つことが多い。ぼーっとした表情が多い。反応が遅く行動に移るのに時間を要する。	何もない。のんき。	進学のこと。	卒業後どうしよう。	ありません。
b．進路の希望 i　短期(当面)の見通し	出来れば，普通高校に入れたい。	専門学校へと先生からアドバイスされている(立川市にある)。自分は高校へ行きたいと思っている。しかし勉強が嫌い。親としては無理をさせず，余裕の段階においておきたい。神経が細いのでやさしい性格をそのままにしておきたい。	高校(行けるところをさがしたい) or職業訓練校。もし行けそうだったら浪人させて。	入れるところがあれば高校の方(私立)。職業高としたら商業。	学校は家からあまり遠くない所へ通学できればと思っている。
ii　長期の見通し	学習についていければ，大学進学も考えている。特に歴史に興味をもっているので，その面の仕事につければ最高であると考えている。しかし，見通しとしてはきびしく思われるので，状況に応じて，小さな店でもしたいと思っている。	お母さんと一緒に暮らしたい。お父さんの仕事の手伝いをさせてもよい(舞台装置の運送)。	そこまでは考えていない。自立してほしい。	弟に運送屋を継いでもらって一緒に家族経営。	どういうことが一番本人にあっているのか，今思いうかばないでいるので，これから考えようと思っている。
c．兄弟(姉妹)は，本人の将来についてどう考えているか	妹には兄のハンディをしっかりと理解させ手助けをさせたいと思っているが，まだ小さい(小3年)ので，はっきりしたことはいえない。	何とも思っていない。お兄ちゃん(本児)をこわがっている。本人は弟が悪いことをすると時々おこる。	考えていない。	姉はだいぶわかっている。面倒みなくちゃと思っている。弟はあまりわかっていない。	なんとも思っていない。
d．将来の社会生活にそなえて現在家庭で配慮していること。また，将来問題になるかもしれないと心配していること	自立生活が出来るように，基本的生活習慣を身につけさせるように努力している。他人との交流(かかわり)がスムーズに出来るかどうか心配している。	あいさつ(おはようございます，こんにちわ，さようなら)。目上の人に対することば使い(ひとりでにできるようになった)。親戚の子にも敬語を使う。使いわけがむずかしい。髪型を気にしている。女の子にかわいいと言われる。好きな女の子(佐藤さん)がかわいいなどと話す。思春期のことはお父さんが話してくれる。お父さんと話す時間を意図的に(1週間に3時間)とっている。	特にない。自分で食べていける職業につかせたい。手に職をつけさせたい(コンピュータゲームなどには関心を示さない)。	常識的なことを教えている。なるべく普通になれるように。	現在のところ，大丈夫ではないかと考えている。
4．地域での生活について					
a．地域の相談機関，サービス機関を利用しているか	特に利用していない。	利用していない。	練馬区教育委員会へ行くつもり。	YMCAの中高生の水泳教室(水曜・土曜)。高校生が多い。友達よりリーダーが好き。公文の塾，算・国(英語がない)週2回。	利用していない。
b．地域のサークルやクラブに参加しているか	月に一度親の会のリサイクルショップの1日店員になる。	空手 お父さんの仕事仲間	参加していない。	ラジオ体操(町会)お祭り(おみこし，山車)	参加していない。
c．近所の人々との付き合い	特に近所の子供とは遊ばないが，朝・夕のあいさつ等はきちんとしている。			となりのタタミ屋のおじさんやとこ屋のおじさんが声をかけてくれる。	

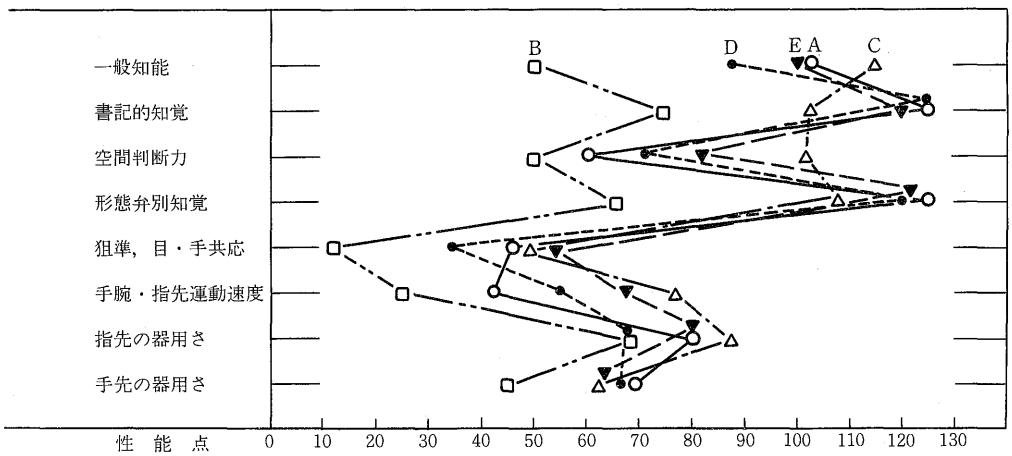


Fig. 2.　一般職業適性検査性能点プロフィール

Table 5.　本人へのインタビュー結果

対　象　児	A	B	C	D	E
1. a．中学を出たらどうするか	高校の普通科に入る。	専門学校(電気か自動車か調理の)に入る。	まだ考えていない。	高校へ行く。	高校に入る。
b．なぜそうするのか	(なぜ普通科かと問われて)その教科ばかりにこっているとそればかりに夢中になるから，全部履修した方がよい。	家で料理しているから。ステレオ，車も好きになったから。		友だちがいっぱいいるから。	すぐ職業をもつなどということは考えていないから。
2. a．どういう職業につきたいか	俳優か会社員	シミズ興業のトラックの運送	まだ考えていない。	畳屋，テニスコーチ	特にこれをやりたいとは考えていない。
b．なぜそれになりたいか	小五のころからせりふを見て言えてきた。	お父さんがやっていたから。		(畳屋が)近くにあるから。	
c．その職業につくにはどうしたらよいか	試験を受ける。落ちたら普通の会社員になる。	18歳になったら免許をとる。4トン車(ターボ車，4,500万)を買う。		わからない。	

2．一般職業適性検査の結果について

職業興味検査とは異なり，職業適性検査結果においては各児がほぼ共通の傾向を示した。すなわち，C児以外の4人では「空間判断力」が著しく低く，また5人全員において「狙準及び目と手の共応」がさらに顕著に低いという傾向である。これらは他の項目に比べて，より正確な視覚的認知機能を要するスキルであると思われるが，このような特徴は，近年指摘されるようになってきた自閉症児における眼球運動の障害（本城，1981）とも関連があるように思われる。さらに「空間判断力」を除く知覚・認知的項目（「一般知能」，「書記的知覚」，「形態弁別知覚」）よりも精密運動的項目（「狙準及び目と手の共応」，「手腕及び指先の運動速度」，「指先の器用さ」，「手先の器用さ」），の方が明らかに低いという傾向がB児以外の4人にみられた。このことは，将来の職業選択の幅を広げるためには，精密運動に関する訓練も必要であることを示唆している。

3．各自における考察

a．A児の希望職種の順位は，「技芸系」が1位，「一般事務系」が2位となっている（Table 2)。これは，本児が俳優か会社員になりたいと答えているためである（Table 5)。職業興味検査においては「一般事務系」，「文科系専門職」，「販売系」に「特に適する」となっており，「奉仕系」に

「適する」となっている。希望と興味・適性が一致している職種は「一般事務系」のみである（Table 2)。一方，一般職業適性検査においては「分類・文書・簡易書記的作業」が適職となっている（Table 3)。これらのことから，A児は一般事務系のうちでも分類や文書整理，簡単な書記などの作業にならば適していると思われる。

中学卒業後は，本人も母親も高校への進学を希望している。(Table 4, 5)。A児は知能においても学力においても，生活年齢と同等のレベルにあるから，これはほぼ妥当な意見といえよう。親は本児の大学進学，興味に合った就職を望んでおりながら，それが困難である場合の店経営などの次善策も考えており，かなり積極的にしかも現実的に本児の将来を見通そうとしている様子がうかがわれる。しかしながら，反応が遅く行動に移るのに時間を要することや，他人との交流の不得手など，親が心配していることも多い。

前報では，A児が「いじめ」の対象となる危険性について報じたが，現在までのところそのような事態に陥ることなく到っている。

b．B児の希望職種の順位は，「技芸系」が1位，「機械技術系」が2位となっている（Table 2)。これは，本児が調理か自動車整備の専門学校に入りたいと答えたためである。また，つきたい職業として父親と同じトラック運送をも上げている（Table 5)。職業興味検査においては「機械技術系」，「理科系専門職」に「特に適する」となっている。希望と興味・適性が一致している職種は「機械技術系」のみである（Table 2)。一方，一般職業適性検査においてはいずれの職種の基準にも到達していない（Table 3)。しかもプロフィールをみると，B児の性能点は他の4児に比べて全体的にかなり低い（Fig. 2)。これらのことから，B児には知覚・認知的スキルや精密運動的スキルの全般にわたる訓練がさらに必要であると思われる。

中学卒業後は，本人も母親も基本的には専門学校への進学を希望している。本人は電気か自動車か調理の専門学校を考えているが（Table 5)，これは趣味や時々行う料理の手伝いなどにもとづいていると思われる（Table 4)。B児は，前報でも指摘されたように，対人関係面での発達が良好である。親は彼の性格を「神経が細くやさしい」と理解しており，あまり無理をさせずその性格をそのまま伸ばしてやりたいと考えている。専門学校卒業後あるいは専門学校に入学できなかった場合の次善策として，父親の仕事（舞台装置の運送）を手伝わせることを考えるなど，現実的な見通しの姿勢もうかがわれる（Table 4)。

c．C児は希望職種についてまだ考えていないと答えた。職業興味検査においては「一般事務系」，「技術事務系」，「機械技術系」，「理化系専門職」に「特に適する」となっている（Table 2)。一方，一般職業適性検査においては「分類・文書・簡易書記的作業」，「図案・美術写真等作業」，「各種の検査作業」が適職となっている（Table 3)。これらのことから，C児は比較的単純な作業であれば，ある程度広い範囲から職業選択できる可能性を持っているといえよう。

中学卒業後のことについて本人はまだ考えていないと答えているが，母親は高校か職業訓練校を考えている。C児はIQが91（Table 1）で，また前報の中学1年時の算数到達度学力検査（CRT）において前学年（小学6年）のレベルを達成していたことから，現時点では母親の意見はほぼ妥当であると思われる。ただし，高校や職業訓練校卒業後，あるいはこれらに入学できなかった場合の見通しはまだ立っていないようである。

d．D児の希望職種は「機械技術系」となっている（Table 2)。これは本児が畳屋になりたいと答えているためである（Table 5)。近所に畳屋があり，そこのおじさんが本児を可愛がってくれているということである（Table 4)。職業興味検査においては「戸外・自然系」に「特に適する」となっており，「機械技術系」に「適する」となっている。希望と興味・適性が一致している職種は「機械技術系」のみである（Table 2)。一方，一般職業適性検査においてはいずれの職種の基準にも到達していない（Table 3)。プロフィールをみると，D児の性能点はA，C，E児に比べて「一般知能」，「狙準及び目と手の共応」，「指先の器用さ」において低く，D児にはこれらのスキルの訓練がさらに必要であると思われる。

中学卒業後は，本人も母親も高校への進学を希望している（Table 4, 5)。D児はIQが68（Table 1)で，また前報の中学1年時の算数到達度学力検査（CTR）において前学年（小学6年）のレベルを達成していなかったことから，高校への入学には相当な困難が伴うものと思われる。本人は将来

畳屋になりたいと言っているが，はたして本当に畳職人になれる素質を持っているかどうかは不明である。高校卒業後あるいは高校に入学できなかった場合の次善策として，家業の運送屋を弟に継いでもらってそれを本児に手伝わせることなど，現実的な見通しの姿勢もうかがわれる（Table 4)。

e．E児の希望職種の順位は，「技芸系」が1位，「販売系」が2位となっている（Table 2)。これは，本児が職業興味検査用紙の質問項目に，第1希望が手芸，第2希望が手芸店と答えているためである。職業興味検査においては「戸外・自然系」に「特に適する」となっている。希望と興味・適性が一致している職種はみられない（Table 2)。しかし，本児は手芸を趣味としており，ぬいぐるみなどを多数自作していることから，上記のような希望が出てきたと思われるし，また本児は花木作りなど，園芸にも関心を持っていることから，上記のような「戸外・自然系」に対する興味・適性が表示されたものと思われる。一方，一般職業適性検査においては「分類・文書・簡易書記的作業」，「各種の検査作業」が適職となっている（Table 3)。これらのことから，職業に関する希望と興味・適性と技能的適性との間には一貫性がみられず，今後方向づけのなされることが必要であると思われる。

中学卒業後は，本人も母親も高校への進学を希望している（Table 4, 5)。E児は知能においても社会生活能力においても，生活年齢と同等のレベルにあるから(前報参照)，これはほぼ妥当な意見といえよう。ただし，前報の中学1年時の算数到達度学力検査（CRT）において前学年（小学6年）のレベルを十分に達成していなかったことが気がかりである。また，高校に入学できなかった場合の見通しはまだ立っていないようである。

今回の調査では，すでに中学2年生となり，進路の問題も切実になりつつある対象児たちの，進路・職業に対する興味・適性について，検査やインタビューを用いて検討した。そして，職業興味検査においては各児が独自の傾向を示し，共通的特徴がほとんどみられないこと，また職業適性検査においては，知覚・認知的技能よりも精密運動的技能の方が低いという共通的傾向がみられることなどが明らかにされた。さらに対象児ごとに，職業に対する希望，興味，技能的適性，中学卒業後の進路希望などについて考察した。今後は，これらの結果を参考にして，各児に適切な進路・職業の選択を検討していく必要があると思われる。

文　献

1）板垣健太郎，山根律子，太田千鶴子，藤原義博，堀之内高久，池弘子，小林重雄，長畑正道，斎藤義夫(1979)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅰ(2)――自閉症児の普通学級適応についての検討――，心身障害学研究，3，101―109.

2）板垣健太郎，藤原義博，財部盛久，野口幸裕，小山望，太田俊己，田村元郎，古川千賀子，打越実，飯島郁郎，笠井実，国谷時司，鈴木正彦，池弘子，小林重雄(1981)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅲ(1)――自閉症児の普通学級適応についての検討――，心身障害学研究，5(1)，1―11.

3）茨木俊夫(1986)：サバイバルスキルをめざした自閉児教育の展望，自閉児教育研究，9，75―90.

4）小林重雄　編著（1980)：「自閉症児――その臨床像と技法――」，川島書店.

5）小林重雄，前川久男，大野裕史，加藤哲文，園山繁樹，古田真理，武蔵博文，佐竹真次，平田幸宏，近藤明子，藤原義博(1983)：自閉性障害児の学校適応に関する追跡研究，安田生命社会事業団研究助成論文集，19，69―86.

6）佐竹真次，園山繁樹，前川久男，有松慶子，神保昌之，中山義光，針替光幸，目時幸，矢野純子，小林重雄(1986)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅶ(1)――自閉症児の普通学級適応についての検討――，心身障害学研究，10(2)，73―85.

7）園山繁樹，藤原義博，板垣健太郎，太田俊己，加藤悦子，松浦裕子，阿部義光，小野沢正俊，古内良勝，松本敬子，小林重雄(1983)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅳ(1)――自閉症児の普通学級適応についての検討――，心身障害学研究，7(1)，33―37.

8）園山繁樹，藤原義博，松浦裕子，加藤悦子，府川恵子，日浦伸佑，金子充夫，菊池一也，中沢要之，杉田忠夫，平野忠夫，小林重雄（1984)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究Ⅴ(1)――自閉症児の普通学級適応についての検討――，心身障害学研究，8(2)，31―37.

9）園山繁樹，佐竹真次，前川久男，有松慶子，磯和夫，幸田実，小山章子，李根梅，藤原義

博，小林重雄(1985)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究VI(1)——自閉症児の普通学級適応についての検討——，心身障害学研究，9(2)，105—111.

10) 本城秀次(1981)：一卵性双生児自閉症不一致例の衝動性眼球運動についての研究，児童精神医学とその近接領域，22(4)，258—269.

11) 山根律子，太田千鶴子，板垣健太郎，藤原義博，財部盛久，池弘子，小林重雄(1980)：自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究II(1)——自閉症児の普通学級適応についての検討——，心身障害学研究，4(1)，82—91.

Summary

The Follow-up studies on School Adjustment of Handicapped Children with Autistic Symptoms VIII(1)
——— On Autistic Children in Regular Class ———

Shinji Satake　Shigeki Sonoyama　Hisao Maekawa　Shigeo Kobayashi

This is the eighth year report on the follow-up study of five autistic children with relatively high intelligence who are enrolled in the regular ar second year of junior high school.

In the present study, their scores in the Occupational Interest Test and the Occupational Aptitude Test were examined. The following were identified: 1) No common characteristic was found among the subjects, and each showed his/her specific profile in the Occupational Interest Test; 2) On the other hand, a common characteristic was found among the subjects, that is, coordinated fine motor skills were considerably inferior to perceptual and cognitive skills in the Occupational Aptitude Test. Three subjects out of the five reached the criteria for only a few occupations.

Key word: autistic children, follow-up study, school adjustment, Occupational Interest Test, Occupational Aptitude Test